

# 令和3年度 小平市立小平第二小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** 日本国憲法、教育基本法の精神及び人間尊重の精神を基盤に、そして小平市教育振興基本計画の理念を基本に、国際社会に貢献できる日本人、郷土を愛する市民であるという自覚を育てる。同時に、小学校教育を生涯学習の一環と捉え、学習の基礎・基本の定着を図り、互いが認め合う心と体の健康づくりのための教育を推進する。

考える子      やりぬく子      思いやりのある子

**目指す学校像(ビジョン)**  
 【目指す学校像】 「学校・地域・家庭が互いに育て合い、子ども一人一人が輝く楽しい学校」  
 【目指す児童・生徒像】 1. 自分の考えをもち、判断し、行動できる子      2. 元気でたくましく、最後まで頑張る子      3. 相手の立場や気持ちを考え、共に生きる豊かな心をもつ子  
 【目指す教員像】 1. 全体の奉仕者として自己の使命を自覚する      2. 専門職、教育のプロとして研究と修養に努める      3. 組織的な対応を意識して職務に励む      4. 健康保持や自己の働き方に留意する

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 ・成果:コロナ感染防止に努めた教育環境の整備やICT機器を活用し、教育活動を推進することができた。コミュニティスクール準備委員会を重ね、令和3年度よりコミュニティスクール設置校に承認を頂いた。  
 ・課題:コロナの制限のある教科指導、履修すべき学習内容や体験等をコロナ感染状況に合わせて学習過程を工夫し確実に行う。若手教員の指導力・授業力の向上。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習や金曜日の補習タイム、家庭学習を活用する。</li> <li>東京ベシック・ドリルの診断シート等で国語や算数の児童の実態を把握し、教員が授業改善に取り組む。</li> <li>感染症拡大防止に対応下で、主体的・対話的に深く学ぼうとする態度を育成する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業力向上担当者と共に6年生の学力調査分析や算数ベシックドリルの診断テスト結果を分析し、各学年の実態に合った指導内容に効果的にICT機器を活用できるように取組を推進する。</li> <li>全教職員で感染状況に合わせて、学校での感染症予防対策を共通理解し教育活動を推進する必要がある。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策を行いながら安全に学校行事を行う事ができ、充実した学校生活を送る事ができていた。</li> <li>ICT活用に関しては、配布されている学習者用端末を含め、子どもたち向け、保護者向けとももう少し進めてほしい。</li> <li>コロナ対策の面で、オンライン授業の推進や日々の生活の中での対策は他校や他地域の学校よりも遅れていると感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習や補習等で個に応じた指導内容と指導法の工夫・改善に努めるとともに、家庭学習の充実を図りながら、自ら学ぶ意欲の喚起や基礎的・基本的な学力の定着を推進することができた。</li> <li>算数では東京ベシック・ドリルを活用し、児童の課題を全校レベルで把握し、習熟度別指導を効果的に取り入れるとともに、個のつまずきに応じた指導を行うことができた。次年度は、さらに個に対応した指導の充実を図るとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を推進する。また、児童の実態や学習状況、指導の実態を把握しながら、次年度の授業改善プランを作成していく。</li> <li>全教職員で感染状況に合わせて、学校での感染症予防対策を共通理解し教育活動を推進することできた。</li> <li>研究推進部を中心に校内研究において、各チームの取組に研究授業実践を通して、国語科の指導内容や言語活動の充実、主体的・対話的に深く学ぼうとする態度を育成に取り組むことができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SNS東京ノート」等を活用する。</li> <li>「二小SNSルール」の取組を、保護者会やホームページ等を活用し、地域や保護者の理解につなげる。</li> <li>「防災ノート」を計画的に活用する。</li> <li>「安全教育プログラム」を活用して、一声(ひとこえ)指導を実践する。</li> <li>全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」を十分理解し、意識向上を目指す。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話やネットなど、ICTに関わる情報モラル教育を、年間指導計画を基にしたが、全学年で長期休業前に学期ごとを実施する。</li> <li>保護者会において、「SNS東京ノート」「SNS学校ルール」について説明し、家庭のルールの設定やフィルタリングサービス等について伝える。また、セーフティ教室やSNA東京ノートなどで、家庭や地域との連携を進めている。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震に合わせて順番を入れ替えたり、不審者情報が多くなったから不審者対策を行ったりと、臨機応変に対応できていたのがよかった。</li> <li>コロナ禍ではあるが、外部講師を招いて親子のSNS講座を充実させたい。</li> <li>昨年あたりから学校最寄りの郵便局前通りの登校の際の歩き方に危険を感じる。車の差し方、車道に急に降りるなど家庭でも注意をしているが、学校からの集中的な指導も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラル教育の年間指導計画に基づいて、全学年が長期休業前に「SNS東京ノート」を活用して、計画的に指導することができた。</li> <li>1学期に「二小SNS使用実態調査を実施し、結果を保護者に周知した。調査を基に長期休業中に家庭でのルール作りについて話し合ってもらうなど、保護者とともに情報モラルについて考える機会を設定することができた。次年度も、児童と保護者の情報モラルに対する意識をさらに高めることができるように取組を工夫する。</li> <li>安全教育については、「安全教育プログラム」や「防災ノート」等を計画的に活用し、生活安全・交通安全・災害安全の内容を各学年の発達段階に応じて系統的に指導することができた。</li> <li>避難訓練については、地震・火災・不審者対応、緊急地震速報の活用、予告なしでの訓練等、訓練の内容や避難の方法を工夫しながら、実践的な訓練を行うことができた。</li> <li>教職員に「二小危機管理マニュアル」を配布し、職代会等で随時、緊急時に自身が果たす役割と責任を確認し理解に努めた。次年度は、「二小避難所マニュアル」の理解推進に取り組む。</li> </ul>
安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防災ノート」を計画的に活用する。</li> <li>「安全教育プログラム」を活用して、一声(ひとこえ)指導を実践する。</li> <li>全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」を十分理解し、意識向上を目指す。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回の避難訓練では、わがを明確にしたが、地震・火災・不審者対応、緊急地震速報の活用、予告なしでの訓練等を実施し、自らを守る姿勢や態度や能力を身に付けられるように指導していく。</li> <li>安全指導については、毎月10日の安全指導の日に全学年で生活安全・交通安全・災害安全の内容を計画的に実施していく。</li> <li>年度当初に、全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」について内容を確認し、非常事態に備え意識を高めておく。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震に合わせて順番を入れ替えたり、不審者情報が多くなったから不審者対策を行ったりと、臨機応変に対応できていたのがよかった。</li> <li>コロナ禍ではあるが、外部講師を招いて親子のSNS講座を充実させたい。</li> <li>昨年あたりから学校最寄りの郵便局前通りの登校の際の歩き方に危険を感じる。車の差し方、車道に急に降りるなど家庭でも注意をしているが、学校からの集中的な指導も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全教育については、「安全教育プログラム」や「防災ノート」等を計画的に活用し、生活安全・交通安全・災害安全の内容を各学年の発達段階に応じて系統的に指導することができた。</li> <li>避難訓練については、地震・火災・不審者対応、緊急地震速報の活用、予告なしでの訓練等、訓練の内容や避難の方法を工夫しながら、実践的な訓練を行うことができた。</li> <li>教職員に「二小危機管理マニュアル」を配布し、職代会等で随時、緊急時に自身が果たす役割と責任を確認し理解に努めた。次年度は、「二小避難所マニュアル」の理解推進に取り組む。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業や特別活動の取組を通して、他者理解や自己肯定感を高める場面を設定し、考えさせる。</li> <li>「二小いじめ防止基本方針」に則り、未然防止、早期発見に全教職員が努める。</li> <li>いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業では、これまでの校内研究の成果を生かしながら授業を積み重ねてきており、学校の重点目標「思いやりのある子」の実現とよりよく生きようとする児童の育成を図る。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>困って相談した時に身近に対応して頂き、経過を見守って対応して頂き感謝している。</li> <li>先生に細かなことでも褒めて頂いたことが自信にも繋がっている。</li> <li>学校の道徳の授業を中心にいじめや思いやりについて指導の充実を図ってほしい。</li> <li>学級通信など子どもの様子を知らせてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業では、これまでの校内研究の成果を生かしながら授業を積み重ねてきており、そのため、「自己理解」や「他者理解」に対する児童の肯定的意見の割合は増えてきている。</li> <li>次年度も、道徳教育推進教員を中心とした組織的な指導体制を構築し、教育活動全体を通して人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を養う。</li> </ul>
いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>「二小いじめ防止基本方針」に則り、未然防止、早期発見に全教職員が努める。</li> <li>いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>月ごとにいじめの実態を調査し、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に努めている。「ふれあい月間」では、いじめに関する学級指導や道徳の授業(思いやり・親切、友情・信頼)を実施する。また、全校児童にいじめに関するアンケート調査を実施し、各担任が適宜聞き取りを行いながら実態を把握できるようにしている。いじめが認知された場合、「学校いじめ対策委員会」を活用し、組織的に対応できるようにしていきたい。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生に細かなことでも褒めて頂いたことが自信にも繋がっている。</li> <li>学校の道徳の授業を中心にいじめや思いやりについて指導の充実を図ってほしい。</li> <li>学級通信など子どもの様子を知らせてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止等の対策として、学校いじめ対策委員会の組織の役割や取組内容について全教職員で再確認し、いじめの定義やいじめへの組織的な対応について共通理解を図った。また、ふれあい月間では、児童に学校生活に関するアンケートを実施し、いじめ等の早期発見や未然防止に努めた。</li> <li>次年度も、スクールカウンセラーと連携を図りながら、児童や保護者が相談しやすい学校体制を整備していくとともに、SOSの出し方に関する教育を年間計画に位置付け、いじめの早期発見・早期対応に努める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>月2回の校内委員会を開催し、(特別支援教室担当教員も出席)医療機関等関係機関との連携や、SC・巡回指導員との情報共有を実現させる。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に組織的に取り組むことができた。校内委員会や生活例会等を通して、情報共有し、連携して支援や配慮の必要な子どもたちの対応につなげる事ができた。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>素早く、臨機応変に対応していただいた事で、不登校とならずにすんだと思う。今回の件で、学校、市、病院と色々な支援があることを知った。</li> <li>マスク着用で友達同士も表情も分りにくいので子どもたちの心のケアはより学校でもより必要かと思う。</li> <li>CSの保護者会見守ボランティアなどの活動が充実していた。よりCS会議を保護者に周知できるように工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援部や特別支援コーディネーターを中心に通常の学級・若草学級・きこえこぼ教室・くすのき教室が情報共有し取組を推進できた。また子ども家庭支援センターなどの関係機関やスクールカウンセラー、巡回相談員、中学校のスクールソーシャルワーカー等とも連携して、問題行動や不登校傾向の児童の心のケアを徹底し、解決を進めることに努めた。</li> <li>次年度も、特別支援学級設置校、聴覚・言語障害指導通級学級拠点校、特別支援教室巡回校としての任を自覚し、小平市の特別支援教育全体の推進に貢献していく。</li> </ul>
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールを組織的且つ計画的に進める。</li> <li>4月～翌年3月までに年間12回の学校経営協議会を開催する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月からCS会議を5回実施し、各プロジェクトの取組内容について全体会で共通理解を図り進めることができた。引き続き各プロジェクト進捗状況を把握して、円滑に取り組めるように尽力する。</li> </ul>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSの保護者会見守ボランティアなどの活動が充実していた。よりCS会議を保護者に周知できるように工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿ってCS会議を実施し、各プロジェクトの取組について共通理解を図り進めることができた。次年度に向けて、各プロジェクトの取組を計画的に推進できるように進捗状況を把握し、情報共有して取り組めるように努める。</li> <li>地域や保護者にCS(便りやHP)等で、役割や取組等の理解を広めることができた。次年度は、CSのHPを立ち上げ、より一層CSの活動について周知に努める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>三密を避けながら、会議は代表者のみが参加し、校内掲示板や職員室メールを活用する。</li> <li>適当たり在校時間は最大60時間とする。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内掲示板と職員室メールの活用や職員会議前に運営委員会を中心に各部会や学年主任会を行うことで、会議時間の短縮につながった。</li> <li>在校時間については教員間の個人差が大きく、それぞれが抱えている分掌の均等化をはかる必要がある。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>配信メールが多すぎる。子どもにきちんと伝え、メールがなくても視が把握出来るように連絡帳を活用してほしい。</li> <li>業務が色々効率化され、配信メールで保護者にもより伝わりやすくなっていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>密を避けるために職員室より広い場所で会議を実施した。校内掲示板と職員室メール、ICT機器の活用や職員会議前に運営委員会を中心に各部会や学年主任会を行うことで会議時間の短縮等の工夫を行うことができた。</li> <li>月の在校時間が長い教員に声掛けをしたり医療面談を実施したりした。教員の健康保持ため積極的な休暇取得を推進した。</li> </ul>
業務職員の働き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の取組は、目標値を掲げるなど明確化する。</li> <li>自己申告書に示した取組を各自が実践する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値を掲げることが、各分掌で計画的に進めている。特別支援などでは数値化することが難しく今後の課題である。自己申告書に示した取組実践を行っていくことについて随時、確認する必要がある。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>メールやロイノートを活用しペーパーレスに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内部評価で組織の目標値(について、今年度の取組を評価し、各分掌で課題について改善策を検討することができた。次年度も各自の自己申告書に、目標の達成度を数値で表し、方向性を示すことで、効果的な取組をする。</li> </ul>